

写メを送る → 絵文字になる

“写メ”から、世界でたった1つのオリジナル「デコメ」が作れる

「写メ字」サービス概要

「デコメ市場」「自分らしさ」「顔・物体認識」について

「ケータイ白書 2010」によると、「デコメ」ユーザーは、2008年と比較して、4.2ポイントの上昇。中でも、10代&20代女性の利用率は、同年代男性と比較すると、3倍以上の70%台になります。さらには、ユーザーの嗜好性の細分化と「皆と同じデコメはイヤ」といった乙女ゴコロも手伝い、1社が複数の「デコメ」サイトを開設している例も珍しくありません。

このような状況の中、2010年4月5日(月)より、株式会社フューチャースコープは、携帯電話のカメラで撮影した写真“写メ”から、顔や物体を認識して自動で切り抜き、実写「デコメ」を生成する新サービスをNTTドコモ、au、ソフトバンクの3キャリア公式サービスにて開始致しました。**嗜好性の細分化と「デコメ」提供会社が入り乱れる“「デコメ」戦国時代”においてユーザーの心を捉えるのは“自分らしさ”です。**

■「デコメ」戦国時代 -「デコメ」は個性、「提供される」から「自分で作る」へ-

携帯キャリア各社の「デコメ」カテゴリ・サイト数

NTT docomo		au		SoftBank	
イラスト	103	総合	284	イラスト・アート・フォト	316
キャラクター	76	キャラクター	91	キャラクター・アニメ	88
キラキラ/カワイイ系	31	絵文字	110	合計	404
スタイリッシュ系	10	メンズ・お笑い	20		
メンズ/オモシロ/ネタ系	15	合計	505		
デコメ絵文字/署名	67				
合計	302				

※各社サイトメニューより(2010年4月5日現在)

現在、NTTドコモ、au、ソフトバンク各社で開設されている「デコメ」サイトは、約1,200サイトあり、上記以外にも、無料サイトが数多く存在しており、ユーザーは用途に応じて「デコメ」サイトを使い分けているほか、友達や彼氏・彼女から送られてきた「デコメ」を保存して、「デコメ」の再利用も頻繁に行われております。

また、無料「デコメ」サイトが多くなり、ユーザーは提供される「デコメ」だけでは物足りないと思い始めており、「**自分で作りたい**」「**オリジナリティあるデコメが欲しい**」「**もっと気持ちを効果的に伝えたい!**」といった期待の声も多く、「デコメ」は**个性的なもの**、「提供される」から「自分で作る」へシフトしてきていると言えます。

■これまででない、全く新しい「デコメ」サービス『写メ字』

この度の弊社新サービス『写メ字』は、上記のような市場の wants を満たす、全く新しい「デコメ」サービスです。携帯電話に搭載されている機能で最も利用率が高いのは「写真撮影」(93.6%。「ケータイ白書 2010」より)であり、日本人は日常的に「写メ」を利用して、友人や家族の顔、買ったものや食べたものを撮影しています。今回のサービス『写メ字』は、この“写メ”を送るだけで、世界でたった 1 つの「デコメ」が瞬時(平均 3~5 秒程度)に生成されるサービスであり、ブログにも活用することができます。

■顔・物体認識技術

<顔認識>

画像を解析し、顔の特徴点を持った箇所を判別し、画像内にある顔の領域を特定します。更に、領域内から目、鼻、口などのパーツを判別し、ツリ目やタレ目などの特徴も判別します。加えて、既存のサンプル内からの傾向値より「性別」や「子供・大人」などの判別もしており、それぞれの属性により切り出しのサイズを微調整してユーザーに「写メ字」を返信します。(例: 女性の場合は髪も多く含まれている方が可愛く見えるため、顔の認識領域を広く取っています。)

上記の技術により、1 つの画像内に「顔」が複数あっても、「顔」の特徴をとらえることが可能な限り、複数の顔を同時に「写メ字」に変換することも可能です。



<物体認識>

従来では不可能といわれてきたモノの認識を商用化レベルにまで研究・開発を進め、瞬時の認識と切り出しを可能にしました。特殊な画像処理加工を施し、対象物の輪郭を際立たせ、色彩の差異や他と違った特徴を持つ領域を特定し、その箇所を物体として認識させ、背景から「モノ」として切り出します。特に、この特徴量の抽出時のアルゴリズムに関しては、特許出願中です(※特許出願中 出願番号 2010-57377)



■今後の展望

『写メ字』は、携帯メール利用率の高い10代~20代の女性をメインターゲットとしておりますが、操作の簡易さから、あらゆる世代にも親しんでいただけるユニバーサルサービスを目指しています。また、今後は、B to C サービスだけでなく、企業とのキャンペーンタイアップなど B to B サービスの展開も視野に入れております。そして、より個性を重視したメールやブログにおける、新しいコミュニケーション文化の創出を目指したいと考えております。

<<本件に関するお問い合わせ先>>
株式会社フューチャースコープ ブランド戦略部 PR 担当: 江頭/土田(エトウ/ツチダ)
TEL: 03-5784-2166 FAX: 03-5784-2350
E-MAIL: shameji_press@futurescope.jp
URL: <http://www.futurescope.jp/>